

アルゼンチンマツイカ 南西大西洋

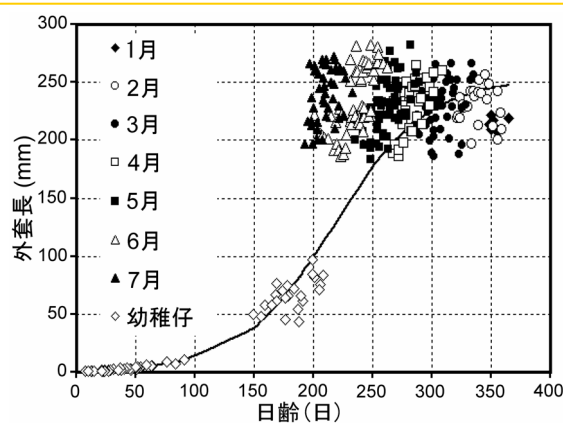
Argentine Shortfin Squid, *Illex argentinus*

最近一年間の動き

我が国のイカ釣船2006年漁期のアルゼンチンEEZ内への入漁は、資源の悪化と沿岸国の漁業管理上の問題からわずか5隻、であった。また、フォークランド海域では資源悪化のため入漁はゼロであった。2005年には水産庁調査船「開洋丸」によるマツイカ幼イカの分布調査が実施され、陸棚域や外洋域に高い密度で分布が認められ資源の回復が示唆された。実際、2006年漁期に資源の回復が見られ、加入量の明らかな増加が確認され、漁獲量も前年よりも増加した。しかし、好調な漁況による供給過多に加え、例年のないサイズの小型化によって国際市場での大幅な価格低下をもたらした。

管理・関係機関

管理はSAFC。評価はアルゼンチン政府及び英国政府がそれぞれの水域内で実施。



“夏季産卵系群”の雌の成長曲線
各点は生まれ月および幼稚仔期(◇)を示す

生物学的特性

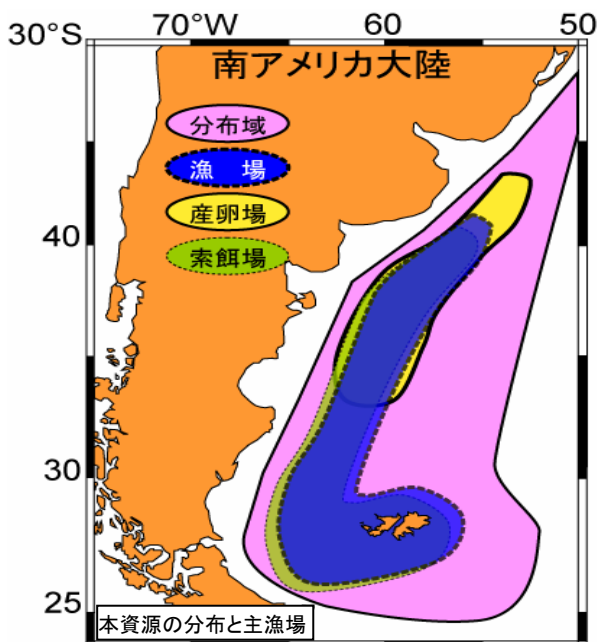
- 寿命: 1 歳
- 成熟開始年齢: 約 8~12 ヶ月
- 産卵期・産卵場: 1 年中; 主に秋から冬、アルゼンチン沖大陸棚斜面域
- 索餌場: アルゼンチン沖大陸棚上
- 食性: 中深層性魚類、オキアミ類、端脚類
- 捕食者: メルルーサ(幼イカ期)、海鳥など

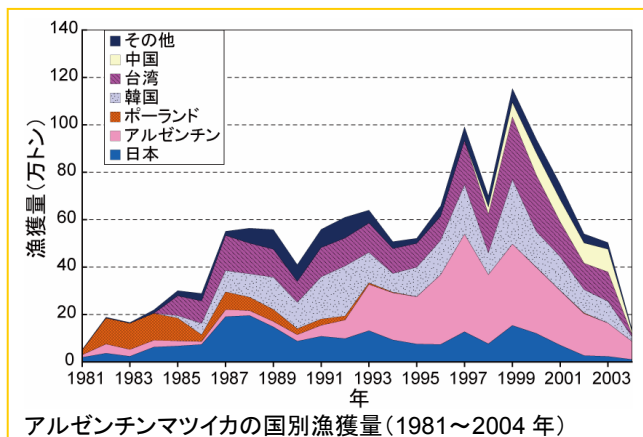
利用・用途

するめ、塩辛、まぐろはえ縄の餌等

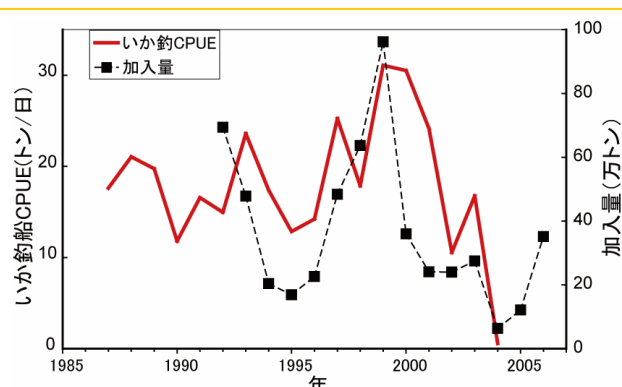
漁業の特徴

主要な漁業国は、日本、韓国、台湾、アルゼンチン等である。1970 年代に沿岸国のアルゼンチン等によって年間数千トンが漁獲されていたが、1980 年代に入りポーランド、日本等の遠洋漁業国のトロール船による本格的な操業が開始された。1980 年代の半ばに日本、台湾及び韓国のいか釣船が操業を開始した。現在でもいか釣船による漁獲がほとんどである。本種の盛漁期は南半球の夏から秋(2月から6月)で、漁場は季節とともに南北に移動する。





アルゼンチンマツイカの国別漁獲量(1981~2004年)



資源量水準の変動。日本のいか釣り漁船のCPUEとアルゼンチンの調査船による加入量(初期資源量)の推定値

管理方策

本種は、ある程度の再生産関係があると想定し、「来漁期の資源にまわす親を一定量(40%)確保する施策」(相対逃避率による再生産管理)をとっている。南方(南緯44度以南)の本種資源は、入漁隻数の制限と解禁日(2月1日)に加え、相対逃避率の目標値を40%となるようにリアルタイムで資源と漁業を管理している。この目標逃避率は毎年必ずしも厳格に施行されてきたわけではなく、わずか11%(残した産卵親イカ量はわずか2.6万トン)に低下した年もあった。このような絶対逃避量の減少による次年度加入量の低下の危険性を避けるため、2001年には相対逃避率管理に加え、絶対的な逃避量4万トンを設定した。なお、アルゼンチンだけで管理する北方海域(南緯44度より北)では、入漁隻数と漁期の制限(5月1日~8月31日)による漁業管理を実施している。

資源評価まとめ

- 南方資源の評価機関はア英国両政府の2国間漁業委員会(SAFC)が実施
- 漁期前の底曳網による生物量調査およびLeslie-DeLury法により評価
- 資源水準は中位で増加

資源管理方策まとめ

- 相対逃避率40%及び絶対逃避量4万トンを維持
- 前年の漁獲実績による入漁隻数の制限
- 解禁日と禁漁期(終漁日)の設定
- 南北資源ともに基本的には努力量管理方策

漁獲の動向

1980年代後半から総漁獲量は増加し、100万トンに達するような年を除くと、近年まで50~70万トン前後で安定していた。日本の漁獲量も1990年代は約10万トンで安定する一方、沿岸国のアルゼンチンの漁獲量が急増を始め30~40万トンに達している。しかし、ごく最近には資源状態が悪化し、2004年には総漁獲量は約14万トンに低下した。

資源状態

アルゼンチンと英国は1992年から共同で、着底トロールによる漁業と独立した初期資源量調査を開始した。当初は比較的高い水準にあったが、1994年から1996年にかけて低水準となった。その後、資源水準は回復に転じ、1999年にピークに達した。しかし、翌年には再び資源量は急激に減少し、2004年には資源は枯渇の危機に瀕した。2005年から徐々に増加を始め、2006年には過去15年平均並みの資源水準に回復した。

アルゼンチンマツイカ(南西大西洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	中位
資源動向	増加
世界の漁獲量(2000~2004年)	14~94万トン 平均:58万トン
我が国の漁獲量(2000~2004年)	1~12万トン 平均:5.1万トン